

第3社会面

世界の宗教家1000人集う

世界宗教者平和会議の開催40周年を記念する「奈良プログラム」が25日、奈良市内で開催された。仏教やキリスト教、イスラム教など各国の宗教関係者約1000人が参加し、世界平和の実現に向けて何ができるのかなどを話し合った。

この日は、同市の東大寺大仏殿前で、参加者らが各国の軍事費のうち10%を貧困撲滅に充てようと呼びかけた。27日までの日程で、分科会や全体会議が行われる。

地域面

貧困撲滅に軍事費の一割

賛同署名、全国から1100万人

世界宗教者平和会議 会場の3500人、大きな拍手



振り上げた拳を降ろし、平和を訴える僧侶ら(奈良市の東大寺で)

「ARMS DOWN」の報告会では、賛同する署名が全国から約1100万人分寄せられたことが報告され、参加者らは改めて世界平和を祈った。

昨年12月から社寺などで署名活動を行っており、会場で署名数が読み上げられると、約3500人の参加者から大きな拍手が起きた。

東大寺の北河原公敬別当は「社会貢献に尽くした光明皇后の1250年御遠忌にふさわしい取り組み。私たちも感慨深い」とあいさつ。WCRP日本委員会理事長の庭野日敏・立正佼成会会長は「オバマ米大統領の就任以降、核軍縮の機運が

世界宗教者平和会議(WCRP)の「奈良プログラム」に関連して、奈良市の東大寺大仏殿前で行われた軍事費の10%を貧困撲滅に充てるキャンペーン

高まっている。平和で豊かな社会を作ろう」と呼びかけた。

最後に、若手僧侶らが仮設ステージに登って振り上げた拳を降ろすポーズを取り、平和実現に向けた誓いを新たにした。